

2025 年の小暑は 7 月 7 日（月）です。

小暑はようやく梅雨が明け、暑さが本格的に到来する季節です。小暑には「暑さがだんだん強くなる時期」という意味があり、次の大暑（たいしょ）と合わせた 1 ヶ月間は厳しい暑さが続きます。

「大暑」の前の「小暑」ではありますが、近年は小暑のころには、すでに猛烈な暑さの日が続くようになりました。昔の人たちも、夏の暑さには悩まされていたようです。

暑き日を海に入れたり最上川

松尾芭蕉

最上川が暑い日を海に運び去るように見える様子を描写しています。

暑い一日を最上川が海に流し込むような力強い夏の終わりと、それによって訪れる涼しさを暗示しています。「最上川が、暑い日を海にいれている」と、まるで「最上川」が人の意思をもって「日」を「海にいれている」かのように表現しています。

小暑には全国でたくさんの祭りや神事があります。祭りで季節の移ろいを感じることができます。大きなお祭りをきっかけに帰省する人も多いのではないのでしょうか。

祇園祭（ぎおんまつり）

7 月 1 日（吉符入）から 31 日（疫神社夏越祭）まで、1 か月にわたって多彩な祭事が行われる京都八坂神社の祭礼です。

コンコンチキチン、コンチキチン。祇園囃子とともに、7 月の京都は祇園祭一色。

17 日の前祭（23 基の山鉾）と 24 日の後祭（11 基の山鉾）の神輿渡御と山鉾巡行、そしてそれぞれの巡行前 3 日間は宵山といい、それぞれの町に建つ山鉾を観覧する人で京のまちは祭りの熱気に包まれます。八坂神社の 3 基の神輿と、34 基の山鉾が合わさって、他では類を見ない活気溢れる豪華絢爛なお祭りです。

コンチキチンの祇園囃子が夏空に響き、山や鉾が通りをゆく山鉾巡行は、祇園祭のハイライト。前祭は四条烏丸から、後祭は烏丸御池から出発します。巡行順を確認する「くじ改め」や豪快な「辻廻し」など、見所がたくさん。

美しい刺しゅうや舶来の織物など山や鉾の懸装品と呼ばれる装飾品の美しさも見事です。豪華絢爛、「動く美術館」とも呼ばれる一大ページェントが繰り広げられます。

